

那覇市立銘苅小学校公開授業研究会・佐藤学講演会

先週の羽地中学校に続き、佐藤先生にとって2週連続の沖縄である。先週、今週とも東京から日帰りの日程でこなしている。感謝です。東京から朝の1便で沖縄に向かい、沖縄から夕方以降の最終便で東京へ帰る。ただありがたいでは済まないような気がする。なぜ佐藤先生がこんなにも沖縄にこだわってくれるのだろう。沖縄に関する佐藤先生の思い入れを感じていきたい。日々のスケジュールの中ではほとんど空きのないのが現状である。土曜日や日曜日の休日の講演会にに応じてくれることにも頭が下がる。



学校においても、休日に授業や講演会を開催することも気遣いや結構なエネルギーを要する。銘苅小でも保護者の授業参観も兼ね授業研究会・講演会を設定した。これも感謝である。



最近、佐藤先生やスーパーバイザーの先生方を年度当初や1学期の早めの時期に招聘して、研究会や講演会が多く開催されるようになった。いいのでは。

校長先生の学校経営の方略や授業経営のビジョンを早めに全職員で共通理解し実践につなげるのに有効的ではないかと考える。早めに取り組んでゆっくり確実に同じベクトルで歩いていく。…こんな学校を創りたい…校長の理念！

本日は3・4校時に授業参観、午後に授業研究会への佐藤先生による助言さらに、佐藤先生の講演会となった。那覇市内を中心に200名以上の参加があった。沖縄における「学びの共同体」の広がり期待したい。

授業参観は3・4校時に行われたがあまりにもクラスが多いのでリフレクションは抜粋させて記させていただきます。ご了承ください。

【整然とした学びは、整然とした教室でしか創れない】



1年生の教室である。ドキドキ、ワクワクの夢と希望にあふれる子ども達、親も一緒である。自分の子どもに期待しない親はいない。子どもの夢や親の期待に何から答えるか。教室の学習環境整備を「気にかけて」ほしい。ロッカーの中や、棚の上、清掃用具、子どもの作品等、雑な扱いの教室では親も不信感を抱く。自分の作品が掲示され大事にされていることは、子どもにとっても親にとってもうれしいことであり、この教室で生活

を送れることに「安心」を提供できるのではないだろうか。保護者や子どもの不信や疑念を払拭するためにも、まずは教室環境を整備することが大切である。次に安心できる教師の「柔らかな対応」がカギとなる。

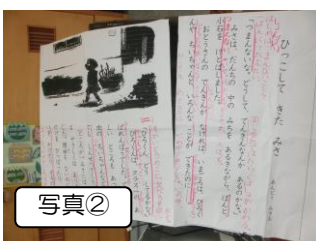
【 共通理解・共通実践・同僚性の構築 】 2年生



写真①

この学年の印象が教材研究がしっかりされ、本も読みこまれ、同僚性の高い教師関係を築いているのではと感じました。どの教室においても写真①②の形態でした。

同じことを違う教室でやってみる。最高の教師の研究になります。教室は様々な子ども達でつくる共生社会です。また教師との関係の在り方によっても様々な反応を見せてくれます。この「同じ・違い」を教師の情報交換で共有することが大切です。文学教材は解釈よりも「親しむ」です。国頭学びの会ゆいのHPに国頭の多くの国語授業のリフレクションがあります。ぜひご参照いただければと思います。さて、右の3枚の写真を見てください。この寄り添い方どう見ます。



写真②

教室における仲間との対話は大切です。低学年はくっつけばくっつくほど安心します。写真③、教師の「寄り添う」です。右の4枚の写真から彼らが獲得するのはまちがいに「安心」であることを分かってもらいたい。

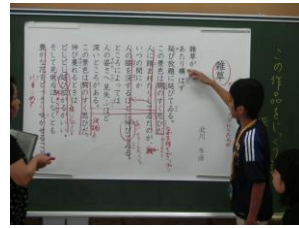


写真③



【表現の共有】 4年 国語 「雑草」

まず、教師の笑顔がいい。それだけで子ども達は安心する。ただ緩みにならないようけじめを気にかけてください。写真④は別クラス（「消しゴムころりん」）です。ここも教師の表情が抜群に良かったです。さらに対話の言葉がとっても柔らかさを持っていました。読みとって「分かったこと」の発表にとどまると、あまり深まりません、「なぜあなたはそう思ったの」そこから互いの感性を学び合うことにつなげたい。



写真④

【きき合う・支え合う】 5年 国語 「5月になれば」



写真⑤

教室にしっかりと感の空気を感じる。いい！
写真⑤、教室の各グループでぶつぶつとつぶやきで対話が交わされる。実にしっかりと聞き合っているのである。言い合うのではなく「なぜ」を聞き合っている。ぜひ銘苅小でモデルにしてほしい教室です。

右の写真、いいですね。まずみんながグループの中央に向けて発言者に心が向けられているのがわかります。「ぼくはこう思う」

各々の考えが否定されることなく、「あなたはそう思うんだ」「わたしは…」とつながっていく。さて、なぜこのようなことがこの教室ではできるのか？

研究会終了後に担任の先生とちょっとお話する機会があった。実に謙虚で教師にしっかりと感がありました。つまり子どもは教師の鏡です。教室は職員室の鏡です。教師の日常の姿を子ども達が素直に演出しているだけなんです。教師の日常を子ども達が模倣（モデリング）しているのです。その日だけやろうとしても無理があります。教師が日常的に子ども達の言葉に心を向けて聴く姿勢を子ども達は見ているのです。…信じられますか。

※ 「教師の話し方・聴き方」 著者：石井順治（ぎょうせい）是非一読ください。



【聴き合う】 6年 国語 「随筆」



写真⑥ 再編集あり
(文章とは一致しません)

写真⑥、授業終末に教師に向けられた子ども達の視線である。統制されて「聴かされている」のか？「聴いてあげなくては」と思って聴いているのか？…どちらですか？

右の写真、先ほどの5年生と同じボソボソ聞き合っているのです。しっかりと聴いているのです。仲間の考えを分かろうとして聴いているのです。写真⑥、この眼のできる教室は「聴き合う」ができています。次は「支え合う教室・仲間」づくりを気にかけてください。



「もっときき合おう」、「もっと支え合おう」この6年生ならきっとできるはずです。協同へ向かう！

銘苅小の皆さんお疲れさんでした。那覇市で初めての佐藤学先生への授業公開と講演会で、気疲れしたのではないのでしょうか？ちょっとした緊張感があり、それでも笑顔で頑張ろうと挑戦する先生方の姿に敬意を表します。「学びの共同体」2年目ですね。国頭地区でも頑張っています。互いに情報を共有しつつつながることができればと思います。…『静かに・淡々と・楽しく』『無理せず・焦らず・ゆっくり』…ゆいのモットーです。

【佐藤先生より】

沖縄ならではのがある。→教師のまじめさ。子どもの素朴さ。ユイマールの精神。
沖縄の教師の弱み。→過去の教育への縛り。変えきれない教師。沖縄の教師としてのビジョンを持つこと。大切な仕事は見えてこない。
銘苅小は沖縄の中の本土→自分さえ・・・が見える。
子ども達が自立に向かっているが協同に向かっていない。
世界はチーム。協同による創造と開発である。
授業ではジャンプ課題の設定を心がける→銘苅小は確実にもっと伸びる。



国頭学びの会ゆい